

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
研究基礎 (Basics for Research)	MPAF02	1	1年次	後期集中	内藤 浩樹(ナイトウ ヒロキ)

授業のねらい概要	<p>特別研究の準備のために、知的財産の管理事例、または、判例などの具体的な事例の調査・分析・考察の手法を学んだうえで、自ら選択したテーマについて、教員の助言を受けながら、具体的な事例や実態の調査・分析・考察を経験する。また、その結果を報告にまとめる。こうした調査・研究手法の講義と助言、および、自ら行う調査と報告作成を通じて、特別研究に取り組むための基礎的な能力を養う。</p> <p>ゼミ形式にて、指導教員との相談を適時に実施しながら進める。まず、教員から特別研究の準備に必要な知識や手法を講義し、受講者は、教員と相談して研究テーマを仮決めして、自主的な調査・研究の準備に入る。そのうえで、受講者は研究テーマに合わせ、教員の助言を受けながら、内外の研究成果や文献、報告書等を検討した上で、テーマを決定し、各種文献、判例、実態その他の調査、分析を行い、考察して、報告作成と発表を行う。</p> <p>本ゼミでは、院修了年次において学会での発表を努力目標としており、発表に向けた準備も行う予定である。</p>
----------	--

授業の内容・教育方法	
(授業の授業スケジュール)	第1回: 研究の基礎事項 研究分野に関する基本事項の学修、及び研究倫理に関する講義
	第2回: 研究の基礎事項 研究の進め方の学修・仮テーマの選定
	第3回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第4回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第5回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第6回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第7回: 報告作成 報告の執筆とその助言
	第8回: 報告作成 調査結果発表

到達目標	<p>以下、特別研究の着手に必要な最低限の能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産の管理事例または判例等の具体的な先行事例の調査、分析、考察の能力 ・前項について英語などの外国語により開示された具体的な先行事例についても実施する能力 ・具体的先行事例の調査・分析・考察を通して新たな課題を発見する能力
------	---

評価方法	<p>評価の対象は、報告の内容を主とし、さらに研究における取り組み、発表内容・態度をも考慮して行う。その評価の割合は以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究基礎調査における取り組み: 10% ② 報告の内容: 70% ③ 発表の内容・態度: 20%
------	--

成績評価基準	<p>以上の①～③を指導教員が上記比率に従って総合評価する。</p> <p>総合点90～100 ……評価「A」 総合点80～89 ……評価「B」 総合点70～79 ……評価「C」 総合点60～69 ……評価「D」 総合点 0～59 ……評価「F」</p> <p>(注)評価の結果は、「A」～「D」を合格、「F」を不合格とする。 ミニマムクワイアメント: 演習課題への継続的な取組と事実の調査結果に基づく独自の分析を行うこと。さらに、先行文献に対する進歩性、独自の考察に応じて総合点を評価する。</p>
--------	---

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			研究テーマや分野に応じ、各指導教員が適宜提示する。		

受講心得	<p>ゼミ開講時に、事前準備(予習事項)・受講後の展開(課題と復習事項)の指示をするので、これらに応えるとともに、自主的に調査・研究を行い、ゼミ開講時に十分な指導を受けること。また他のゼミ生の研究についても関心をもち、ゼミ開講時には自己の研究について積極的に発表し、教員や他のゼミ生と討論すること。</p> <p>本科目はメディア授業対応です。</p> <p>ゼミ内での発表後、ディスカッションを行うので、ディスカッションには積極的に参加し、理解を深めること。</p> <p>フィードバックはゼミ中に行うので改善の参考にすること。</p>
------	---

オフィスアワー	指導教員のゼミ開講時間以外にも、予約により教員が研究室に在室の場合に質問や相談に応じ、またメール等による相談も受付ける。
---------	--

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
研究基礎 (Basics for Research)	MPAF02	1	1年次	後期集中	高橋 寛(タカハシ ヒロシ)

授業のねらい概要	<p>特別研究の準備のために、知的財産の管理事例、または、判例などの具体的な事例の調査・分析・考察の手法を学んだうえで、自ら選択したテーマについて、教員の助言を受けながら、具体的な事例や実態の調査・分析・考察を経験する。また、その結果を報告にまとめる。こうした調査・研究手法の講義と助言、および、自ら行う調査と報告作成を通じて、特別研究に取り組むための基礎的な能力を養う。</p> <p>ゼミ形式にて、指導教員との相談を適時に実施しながら進める。まず、教員から特別研究の準備に必要な知識や手法を講義し、受講者は、教員と相談して研究テーマを決め、自主的な調査・研究の準備に入る。そのうえで、受講者は研究テーマに合わせ、教員の助言を受けながら、内外の研究成果や文献、報告書等を検討した上で、テーマを決定し、各種文献、判例、実態その他の調査、分析を行い、考察して、報告作成と発表を行う。</p> <p>本ゼミでは、院修了年次において学会での発表を努力目標としており、発表に向けた準備も行う予定である。</p>
----------	---

授業の内容・教育方法	
(授業の授業スケジュール)	第1回: 研究の基礎事項 研究分野に関する基本事項の学修、及び研究倫理に関する講義
	第2回: 研究の基礎事項 研究の進め方の学修・仮テーマの選定
	第3回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第4回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第5回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第6回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第7回: 報告作成 報告の執筆とその助言
	第8回: 報告作成 調査結果発表

到達目標	<p>以下、特別研究の着手に必要な最低限の能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産の管理事例または判例等の具体的な先行事例の調査、分析、考察の能力 ・前項について英語などの外国語により開示された具体的な先行事例についても実施する能力 ・具体的先行事例の調査・分析・考察を通して新たな課題を発見する能力
------	---

評価方法	<p>評価の対象は、報告の内容を主とし、さらに研究における取り組み、発表内容・態度をも考慮して行う。その評価の割合は以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究基礎調査における取り組み: 10% ② 報告の内容: 70% ③ 発表の内容・態度: 20%
------	--

成績評価基準	<p>以上の①～③を指導教員が上記比率に従って総合評価する。</p> <p>総合点90～100 ……評価「A」 総合点80～89 ……評価「B」 総合点70～79 ……評価「C」 総合点60～69 ……評価「D」 総合点 0～59 ……評価「F」</p> <p>(注) 評価の結果は、「A」～「D」を合格、「F」を不合格とする。 ミニマムクワイアメント: 演習課題への継続的な取組と事実の調査結果に基づく独自の分析を行うこと。さらに、先行文献に対する進歩性、独自の考察に応じて総合点を評価する。</p>
--------	--

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			研究テーマや分野に応じ、各指導教員が適宜提示する。		

受講心得	<p>ゼミ開講時に、事前準備(予習事項)・受講後の展開(課題と復習事項)の指示をするので、これらに応えるとともに、自主的に調査・研究を行い、ゼミ開講時に十分な指導を受けること。また他のゼミ生の研究についても関心をもち、ゼミ開講時には自己の研究について積極的に発表し、教員や他のゼミ生と討論すること。</p> <p>本科目はメディア授業対応です。</p> <p>ゼミ内での発表後、ディスカッションを行うので、ディスカッションには積極的に参加し、理解を深めること。</p> <p>フィードバックはゼミ中に行うので改善の参考にすること。</p>
------	---

オフィスアワー	指導教員のゼミ開講時間以外にも、予約により教員が研究室に在室の場合に質問や相談に応じ、またメール等による相談も受付ける。
---------	--

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
研究基礎 (Basics for Research)	MPAF02	1	1年次	後期集中	松井 章浩(マツイ アキヒロ)

授業のねらい概要	<p>特別研究の準備のために、知的財産の管理事例、または、判例などの具体的な事例の調査・分析・考察の手法を学んだうえで、自ら選択したテーマについて、教員の助言を受けながら、具体的な事例や実態の調査・分析・考察を経験する。また、その結果を報告にまとめる。こうした調査・研究手法の講義と助言、および、自ら行う調査と報告作成を通じて、特別研究に取り組むための基礎的な能力を養う。</p> <p>ゼミ形式にて、指導教員との相談を適時に実施しながら進める。まず、教員から特別研究の準備に必要な知識や手法を講義し、受講者は、教員と相談して研究テーマを決め、自主的な調査・研究の準備に入る。そのうえで、受講者は研究テーマに合わせ、教員の助言を受けながら、内外の研究成果や文献、報告書等を検討した上で、テーマを決定し、各種文献、判例、実態その他の調査、分析を行い、考察して、報告作成と発表を行う。</p> <p>本ゼミでは、院修了年次において学会での発表を努力目標としており、発表に向けた準備も行う予定である。</p>
----------	---

授業の内容・教育方法	
(授業の授業スケジュール)	第1回: 研究の基礎事項 研究分野に関する基本事項の学修、及び研究倫理に関する講義
	第2回: 研究の基礎事項 研究の進め方の学修・仮テーマの選定
	第3回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第4回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第5回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第6回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第7回: 報告作成 報告の執筆とその助言
	第8回: 報告作成 調査結果発表

到達目標	<p>以下、特別研究の着手に必要な最低限の能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産の管理事例または判例等の具体的な先行事例の調査、分析、考察の能力 ・前項について英語などの外国語により開示された具体的な先行事例についても実施する能力 ・具体的先行事例の調査・分析・考察を通して新たな課題を発見する能力
------	---

評価方法	<p>評価の対象は、報告の内容を主とし、さらに研究における取り組み、発表内容・態度をも考慮して行う。その評価の割合は以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究基礎調査における取り組み: 10% ② 報告の内容: 70% ③ 発表の内容・態度: 20%
------	--

成績評価基準	<p>以上の①～③を指導教員が上記比率に従って総合評価する。</p> <p>総合点90～100 ……評価「A」 総合点80～89 ……評価「B」 総合点70～79 ……評価「C」 総合点60～69 ……評価「D」 総合点 0～59 ……評価「F」</p> <p>(注) 評価の結果は、「A」～「D」を合格、「F」を不合格とする。 ミニマムクワイアメント: 演習課題への継続的な取組と事実の調査結果に基づく独自の分析を行うこと。さらに、先行文献に対する進歩性、独自の考察に応じて総合点を評価する。</p>
--------	--

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			研究テーマや分野に応じ、各指導教員が適宜提示する。		

受講心得	<p>ゼミ開講時に、事前準備(予習事項)・受講後の展開(課題と復習事項)の指示をするので、これらに応えるとともに、自主的に調査・研究を行い、ゼミ開講時に十分な指導を受けること。また他のゼミ生の研究についても関心をもち、ゼミ開講時には自己の研究について積極的に発表し、教員や他のゼミ生と討論すること。</p> <p>本科目はメディア授業対応です。 ゼミ内での発表後、ディスカッションを行うので、ディスカッションには積極的に参加し、理解を深めること。 フィードバックはゼミ中に行うので改善の参考にすること。</p>
------	---

オフィスアワー	指導教員のゼミ開講時間以外にも、予約により教員が研究室に在室の場合に質問や相談に応じ、またメール等による相談も受付ける。
---------	--

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
研究基礎 (Basics for Research)	MPAF02	1	1年次	後期集中	三浦 武範(ミウラ タケノリ)

授業のねらい概要	<p>特別研究の準備のために、知的財産の管理事例、または、判例などの具体的な事例の調査・分析・考察の手法を学んだうえで、自ら選択したテーマについて、教員の助言を受けながら、具体的な事例や実態の調査・分析・考察を経験する。また、その結果を報告にまとめる。こうした調査・研究手法の講義と助言、および、自ら行う調査と報告作成を通じて、特別研究に取り組むための基礎的な能力を養う。</p> <p>ゼミ形式にて、指導教員との相談を適時に実施しながら進める。まず、教員から特別研究の準備に必要な知識や手法を講義し、受講者は、教員と相談して研究テーマを決め、自主的な調査・研究の準備に入る。そのうえで、受講者は研究テーマに合わせ、教員の助言を受けながら、内外の研究成果や文献、報告書等を検討した上で、テーマを決定し、各種文献、判例、実態その他の調査、分析を行い、考察して、報告作成と発表を行う。</p> <p>本ゼミでは、院修了年次において学会での発表を努力目標としており、発表に向けた準備も行う予定である。</p>
----------	---

授業の内容・教育方法	
(授業の授業スケジュール)	第1回: 研究の基礎事項 研究分野に関する基本事項の学修、及び研究倫理に関する講義
	第2回: 研究の基礎事項 研究の進め方の学修・仮テーマの選定
	第3回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第4回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第5回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第6回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第7回: 報告作成 報告の執筆とその助言
	第8回: 報告作成 調査結果発表

到達目標	<p>以下、特別研究の着手に必要な最低限の能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産の管理事例または判例等の具体的な先行事例の調査、分析、考察の能力 ・前項について英語などの外国語により開示された具体的な先行事例についても実施する能力 ・具体的先行事例の調査・分析・考察を通して新たな課題を発見する能力
------	---

評価方法	<p>評価の対象は、報告の内容を主とし、さらに研究における取り組み、発表内容・態度をも考慮して行う。その評価の割合は以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究基礎調査における取り組み: 10% ② 報告の内容: 70% ③ 発表の内容・態度: 20%
------	--

成績評価基準	<p>以上の①～③を指導教員が上記比率に従って総合評価する。</p> <p>総合点90～100 ……評価「A」 総合点80～89 ……評価「B」 総合点70～79 ……評価「C」 総合点60～69 ……評価「D」 総合点 0～59 ……評価「F」</p> <p>(注) 評価の結果は、「A」～「D」を合格、「F」を不合格とする。 ミニマムクワイアメント: 演習課題への継続的な取組と事実の調査結果に基づく独自の分析を行うこと。さらに、先行文献に対する進歩性、独自の考察に応じて総合点を評価する。</p>
--------	--

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			研究テーマや分野に応じ、各指導教員が適宜提示する。		

受講心得	<p>ゼミ開講時に、事前準備(予習事項)・受講後の展開(課題と復習事項)の指示をするので、これらに応えるとともに、自主的に調査・研究を行い、ゼミ開講時に十分な指導を受けること。また他のゼミ生の研究についても関心をもち、ゼミ開講時には自己の研究について積極的に発表し、教員や他のゼミ生と討論すること。</p> <p>本科目はメディア授業対応です。</p> <p>ゼミ内での発表後、ディスカッションを行うので、ディスカッションには積極的に参加し、理解を深めること。</p> <p>フィードバックはゼミ中に行うので改善の参考にすること。</p>
------	---

オフィスアワー	指導教員のゼミ開講時間以外にも、予約により教員が研究室に在室の場合に質問や相談に応じ、またメール等による相談も受付ける。
---------	--

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
研究基礎 (Basics for Research)	MPAF02	1	1年次	後期集中	矢作 嘉章(ヤハagi ヨシアキ)

授業のねらい概要	<p>特別研究の準備のために、知的財産の管理事例、または、判例などの具体的な事例の調査・分析・考察の手法を学んだうえで、自ら選択したテーマについて、教員の助言を受けながら、具体的な事例や実態の調査・分析・考察を経験する。また、その結果を報告にまとめる。こうした調査・研究手法の講義と助言、および、自ら行う調査と報告作成を通じて、特別研究に取り組むための基礎的な能力を養う。</p> <p>ゼミ形式にて、指導教員との相談を適時に実施しながら進める。まず、教員から特別研究の準備に必要な知識や手法を講義し、受講者は、教員と相談して研究テーマを仮決めして、自主的な調査・研究の準備に入る。そのうえで、受講者は研究テーマに合わせ、教員の助言を受けながら、内外の研究成果や文献、報告書等を検討した上で、テーマを決定し、各種文献、判例、実態その他の調査、分析を行い、考察して、報告作成と発表を行う。</p> <p>本ゼミでは、院修了年次において学会での発表を努力目標としており、発表に向けた準備も行う予定である。</p>
----------	--

授業の内容・教育方法	
(授業の授業スケジュール)	第1回:研究の基礎事項 研究分野に関する基本事項の学修、及び研究倫理に関する講義
	第2回:研究の基礎事項 研究の進め方の学修・仮テーマの選定
	第3回:仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第4回:仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第5回:調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第6回:調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第7回:報告作成 報告の執筆とその助言
	第8回:報告作成 調査結果発表

到達目標	<p>以下、特別研究の着手に必要な最低限の能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産の管理事例または判例等の具体的な先行事例の調査、分析、考察の能力 ・前項について英語などの外国語により開示された具体的な先行事例についても実施する能力 ・具体的先行事例の調査・分析・考察を通して新たな課題を発見する能力
評価方法	<p>評価の対象は、報告の内容を主とし、さらに研究における取り組み、発表内容・態度をも考慮して行う。その評価の割合は以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究基礎調査における取り組み:10% ② 報告の内容:70% ③ 発表の内容・態度:20%
成績評価基準	<p>以上の①～③を指導教員が上記比率に従って総合評価する。</p> <p>総合点90～100 ……評価「A」 総合点80～89 ……評価「B」 総合点70～79 ……評価「C」 総合点60～69 ……評価「D」 総合点 0～59 ……評価「F」</p> <p>(注)評価の結果は、「A」～「D」を合格、「F」を不合格とする。 ミニマムクワイアメント: 演習課題への継続的な取組と事実の調査結果に基づく独自の分析を行うこと。さらに、先行文献に対する進歩性、独自の考察に応じて総合点を評価する。</p>

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			研究テーマや分野に応じ、各指導教員が適宜提示する。		

受講心得	<p>ゼミ開講時に、事前準備(予習事項)・受講後の展開(課題と復習事項)の指示をするので、これらに応えるとともに、自主的に調査・研究を行い、ゼミ開講時に十分な指導を受けること。また他のゼミ生の研究についても関心をもち、ゼミ開講時には自己の研究について積極的に発表し、教員や他のゼミ生と討論すること。</p> <p>本科目はメディア授業対応です。</p> <p>ゼミ内での発表後、ディスカッションを行うので、ディスカッションには積極的に参加し、理解を深めること。</p> <p>フィードバックはゼミ中に行うので改善の参考にすること。</p>
------	---

オフィスアワー	指導教員のゼミ開講時間以外にも、予約により教員が研究室に在室の場合に質問や相談に応じ、またメール等による相談も受付ける。
---------	--

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
研究基礎 (Basics for Research)	MPAF02	1	1年次	後期集中	箱田 聖二(ハコダ セイジ)

授業のねらい概要	<p>特別研究の準備のために、知的財産の管理事例、または、判例などの具体的な事例の調査・分析・考察の手法を学んだうえで、自ら選択したテーマについて、教員の助言を受けながら、具体的な事例や実態の調査・分析・考察を経験する。また、その結果を報告にまとめる。こうした調査・研究手法の講義と助言、および、自ら行う調査と報告作成を通じて、特別研究に取り組むための基礎的な能力を養う。</p> <p>ゼミ形式にて、指導教員との相談を適時に実施しながら進める。まず、教員から特別研究の準備に必要な知識や手法を講義し、受講者は、教員と相談して研究テーマを決め、自主的な調査・研究の準備に入る。そのうえで、受講者は研究テーマに合わせ、教員の助言を受けながら、内外の研究成果や文献、報告書等を検討した上で、テーマを決定し、各種文献、判例、実態その他の調査、分析を行い、考察して、報告作成と発表を行う。</p> <p>本ゼミでは、院修了年次において学会での発表を努力目標としており、発表に向けた準備も行う予定である。</p>
----------	---

授業の内容・教育方法	
(授業の授業スケジュール)	第1回: 研究の基礎事項 研究分野に関する基本事項の学修、及び研究倫理に関する講義
	第2回: 研究の基礎事項 研究の進め方の学修・仮テーマの選定
	第3回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第4回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第5回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第6回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第7回: 報告作成 報告の執筆とその助言
	第8回: 報告作成 調査結果発表

到達目標	<p>以下、特別研究の着手に必要な最低限の能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産の管理事例または判例等の具体的な先行事例の調査、分析、考察の能力 ・前項について英語などの外国語により開示された具体的な先行事例についても実施する能力 ・具体的先行事例の調査・分析・考察を通して新たな課題を発見する能力
------	---

評価方法	<p>評価の対象は、報告の内容を主とし、さらに研究における取り組み、発表内容・態度をも考慮して行う。その評価の割合は以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究基礎調査における取り組み: 10% ② 報告の内容: 70% ③ 発表の内容・態度: 20%
------	--

成績評価基準	<p>以上の①～③を指導教員が上記比率に従って総合評価する。</p> <p>総合点90～100 ……評価「A」 総合点80～89 ……評価「B」 総合点70～79 ……評価「C」 総合点60～69 ……評価「D」 総合点 0～59 ……評価「F」</p> <p>(注) 評価の結果は、「A」～「D」を合格、「F」を不合格とする。 ミニマムクワイアメント: 演習課題への継続的な取組と事実の調査結果に基づく独自の分析を行うこと。さらに、先行文献に対する進歩性、独自の考察に応じて総合点を評価する。</p>
--------	--

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			研究テーマや分野に応じ、各指導教員が適宜提示する。		

受講心得	<p>ゼミ開講時に、事前準備(予習事項)・受講後の展開(課題と復習事項)の指示をするので、これらに応えるとともに、自主的に調査・研究を行い、ゼミ開講時に十分な指導を受けること。また他のゼミ生の研究についても関心をもち、ゼミ開講時には自己の研究について積極的に発表し、教員や他のゼミ生と討論すること。</p> <p>本科目はメディア授業対応です。</p> <p>ゼミ内での発表後、ディスカッションを行うので、ディスカッションには積極的に参加し、理解を深めること。</p> <p>フィードバックはゼミ中に行うので改善の参考にすること。</p>
------	---

オフィスアワー	指導教員のゼミ開講時間以外にも、予約により教員が研究室に在室の場合に質問や相談に応じ、またメール等による相談も受付ける。
---------	--

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
研究基礎 (Basics for Research)	MPAF02	1	1年次	後期集中	小林 昭寛(コバヤシ アキヒロ)

授業のねらい概要	<p>特別研究の準備のために、知的財産の管理事例、または、判例などの具体的な事例の調査・分析・考察の手法を学んだうえで、自ら選択したテーマについて、教員の助言を受けながら、具体的な事例や実態の調査・分析・考察を経験する。また、その結果を報告にまとめる。こうした調査・研究手法の講義と助言、および、自ら行う調査と報告作成を通じて、特別研究に取り組むための基礎的な能力を養う。</p> <p>ゼミ形式にて、指導教員との相談を適時に実施しながら進める。まず、教員から特別研究の準備に必要な知識や手法を講義し、受講者は、教員と相談して研究テーマを決め、自主的な調査・研究の準備に入る。そのうえで、受講者は研究テーマに合わせ、教員の助言を受けながら、内外の研究成果や文献、報告書等を検討した上で、テーマを決定し、各種文献、判例、実態その他の調査、分析を行い、考察して、報告作成と発表を行う。</p> <p>本ゼミでは、院修了年次において学会での発表を努力目標としており、発表に向けた準備も行う予定である。</p>
----------	---

授業の内容・教育方法	
(授業の授業スケジュール)	第1回: 研究の基礎事項 研究分野に関する基本事項の学修、及び研究倫理に関する講義
	第2回: 研究の基礎事項 研究の進め方の学修・仮テーマの選定
	第3回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第4回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第5回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第6回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第7回: 報告作成 報告の執筆とその助言
	第8回: 報告作成 調査結果発表

到達目標	<p>以下、特別研究の着手に必要な最低限の能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産の管理事例または判例等の具体的な先行事例の調査、分析、考察の能力 ・前項について英語などの外国語により開示された具体的な先行事例についても実施する能力 ・具体的先行事例の調査・分析・考察を通して新たな課題を発見する能力
評価方法	<p>評価の対象は、報告の内容を主とし、さらに研究における取り組み、発表内容・態度をも考慮して行う。その評価の割合は以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究基礎調査における取り組み: 10% ② 報告の内容: 70% ③ 発表の内容・態度: 20%
成績評価基準	<p>以上の①～③を指導教員が上記比率に従って総合評価する。</p> <p>総合点90～100 ……評価「A」 総合点80～89 ……評価「B」 総合点70～79 ……評価「C」 総合点60～69 ……評価「D」 総合点 0～59 ……評価「F」</p> <p>(注) 評価の結果は、「A」～「D」を合格、「F」を不合格とする。 ミニマムクワイアメント: 演習課題への継続的な取組と事実の調査結果に基づく独自の分析を行うこと。さらに、先行文献に対する進歩性、独自の考察に応じて総合点を評価する。</p>

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			研究テーマや分野に応じ、各指導教員が適宜提示する。		

受講心得	<p>ゼミ開講時に、事前準備(予習事項)・受講後の展開(課題と復習事項)の指示をするので、これらに応えるとともに、自主的に調査・研究を行い、ゼミ開講時に十分な指導を受けること。また他のゼミ生の研究についても関心をもち、ゼミ開講時には自己の研究について積極的に発表し、教員や他のゼミ生と討論すること。</p> <p>本科目はメディア授業対応です。</p> <p>ゼミ内での発表後、ディスカッションを行うので、ディスカッションには積極的に参加し、理解を深めること。</p> <p>フィードバックはゼミ中に行うので改善の参考にすること。</p>
------	---

オフィスアワー	指導教員のゼミ開講時間以外にも、予約により教員が研究室に在室の場合に質問や相談に応じ、またメール等による相談も受付ける。
---------	--

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
研究基礎 (Basics for Research)	MPAF02	1	1年次	後期集中	大塚 理彦(オオツカ ミチヒコ)

授業のねらい概要	<p>特別研究の準備のために、知的財産の管理事例、または、判例などの具体的な事例の調査・分析・考察の手法を学んだうえで、自ら選択したテーマについて、教員の助言を受けながら、具体的な事例や実態の調査・分析・考察を経験する。また、その結果を報告にまとめる。こうした調査・研究手法の講義と助言、および、自ら行う調査と報告作成を通じて、特別研究に取り組むための基礎的な能力を養う。</p> <p>ゼミ形式にて、指導教員との相談を適時に実施しながら進める。まず、教員から特別研究の準備に必要な知識や手法を講義し、受講者は、教員と相談して研究テーマを仮決めして、自主的な調査・研究の準備に入る。そのうえで、受講者は研究テーマに合わせ、教員の助言を受けながら、内外の研究成果や文献、報告書等を検討した上で、テーマを決定し、各種文献、判例、実態その他の調査、分析を行い、考察して、報告作成と発表を行う。</p> <p>本ゼミでは、院修了年次において学会での発表を努力目標としており、発表に向けた準備も行う予定である。</p>
----------	--

授業の内容・教育方法	
(授業の授業スケジュール)	第1回: 研究の基礎事項 研究分野に関する基本事項の学修、及び研究倫理に関する講義
	第2回: 研究の基礎事項 研究の進め方の学修・仮テーマの選定
	第3回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第4回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第5回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第6回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第7回: 報告作成 報告の執筆とその助言
	第8回: 報告作成 調査結果発表

到達目標	<p>以下、特別研究の着手に必要な最低限の能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産の管理事例または判例等の具体的な先行事例の調査、分析、考察の能力 ・前項について英語などの外国語により開示された具体的な先行事例についても実施する能力 ・具体的先行事例の調査・分析・考察を通して新たな課題を発見する能力
評価方法	<p>評価の対象は、報告の内容を主とし、さらに研究における取り組み、発表内容・態度をも考慮して行う。その評価の割合は以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究基礎調査における取り組み: 10% ② 報告の内容: 70% ③ 発表の内容・態度: 20%
成績評価基準	<p>以上の①～③を指導教員が上記比率に従って総合評価する。</p> <p>総合点90～100 ……評価「A」 総合点80～89 ……評価「B」 総合点70～79 ……評価「C」 総合点60～69 ……評価「D」 総合点 0～59 ……評価「F」</p> <p>(注) 評価の結果は、「A」～「D」を合格、「F」を不合格とする。 ミニマムクワイアメント: 演習課題への継続的な取組と事実の調査結果に基づく独自の分析を行うこと。さらに、先行文献に対する進歩性、独自の考察に応じて総合点を評価する。</p>

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			研究テーマや分野に応じ、各指導教員が適宜提示する。		

受講心得	<p>ゼミ開講時に、事前準備(予習事項)・受講後の展開(課題と復習事項)の指示をするので、これらに応えるとともに、自主的に調査・研究を行い、ゼミ開講時に十分な指導を受けること。また他のゼミ生の研究についても関心をもち、ゼミ開講時には自己の研究について積極的に発表し、教員や他のゼミ生と討論すること。</p> <p>本科目はメディア授業対応です。</p> <p>ゼミ内での発表後、ディスカッションを行うので、ディスカッションには積極的に参加し、理解を深めること。</p> <p>フィードバックはゼミ中に行うので改善の参考にすること。</p>
------	---

オフィスアワー	指導教員のゼミ開講時間以外にも、予約により教員が研究室に在室の場合に質問や相談に応じ、またメール等による相談も受付ける。
---------	--

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
研究基礎 (Basics for Research)	MPAF02	1	1年次	後期集中	村川 一雄(ムラカワ カズオ)

授業のねらい概要	<p>特別研究の準備のために、知的財産の管理事例、または、判例などの具体的な事例の調査・分析・考察の手法を学んだうえで、自ら選択したテーマについて、教員の助言を受けながら、具体的な事例や実態の調査・分析・考察を経験する。また、その結果を報告にまとめる。こうした調査・研究手法の講義と助言、および、自ら行う調査と報告作成を通じて、特別研究に取り組むための基礎的な能力を養う。</p> <p>ゼミ形式にて、指導教員との相談を適時に実施しながら進める。まず、教員から特別研究の準備に必要な知識や手法を講義し、受講者は、教員と相談して研究テーマを決め、自主的な調査・研究の準備に入る。そのうえで、受講者は研究テーマに合わせて、教員の助言を受けながら、内外の研究成果や文献、報告書等を検討した上で、テーマを決定し、各種文献、判例、実態その他の調査、分析を行い、考察して、報告作成と発表を行う。</p> <p>本ゼミでは、院修了年次において学会での発表を努力目標としており、発表に向けた準備も行う予定である。</p>
----------	--

授業の内容・教育方法	
(授業の授業スケジュール)	第1回:研究の基礎事項 研究分野に関する基本事項の学修、及び研究倫理に関する講義
	第2回:研究の基礎事項 研究の進め方の学修・仮テーマの選定
	第3回:仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第4回:仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第5回:調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第6回:調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第7回:報告作成 報告の執筆とその助言
	第8回:報告作成 調査結果発表

到達目標	<p>以下、特別研究の着手に必要な最低限の能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産の管理事例または判例等の具体的な先行事例の調査、分析、考察の能力 ・前項について英語などの外国語により開示された具体的な先行事例についても実施する能力 ・具体的先行事例の調査・分析・考察を通して新たな課題を発見する能力
評価方法	<p>評価の対象は、報告の内容を主とし、さらに研究における取り組み、発表内容・態度をも考慮して行う。その評価の割合は以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究基礎調査における取り組み:10% ② 報告の内容:70% ③ 発表の内容・態度:20%
成績評価基準	<p>以上の①～③を指導教員が上記比率に従って総合評価する。</p> <p>総合点90～100 ……評価「A」 総合点80～89 ……評価「B」 総合点70～79 ……評価「C」 総合点60～69 ……評価「D」 総合点 0～59 ……評価「F」</p> <p>(注)評価の結果は、「A」～「D」を合格、「F」を不合格とする。 ミニマムクワイアメント: 演習課題への継続的な取組と事実の調査結果に基づく独自の分析を行うこと。さらに、先行文献に対する進歩性、独自の考察に応じて総合点を評価する。</p>

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			研究テーマや分野に応じ、各指導教員が適宜提示する。		

受講心得	<p>ゼミ開講時に、事前準備(予習事項)・受講後の展開(課題と復習事項)の指示をするので、これらに応えるとともに、自主的に調査・研究を行い、ゼミ開講時に十分な指導を受けること。また他のゼミ生の研究についても関心をもち、ゼミ開講時には自己の研究について積極的に発表し、教員や他のゼミ生と討論すること。</p> <p>本科目はメディア授業対応です。</p> <p>ゼミ内での発表後、ディスカッションを行うので、ディスカッションには積極的に参加し、理解を深めること。</p> <p>フィードバックはゼミ中に行うので改善の参考にすること。</p>
------	---

オフィスアワー	指導教員のゼミ開講時間以外にも、予約により教員が研究室に在室の場合に質問や相談に応じ、またメール等による相談も受付ける。
---------	--

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
研究基礎 (Basics for Research)	MPAF02	1	1年次	後期集中	杉浦 淳(スギウラ ジュン)

授業のねらい概要	<p>特別研究の準備のために、知的財産の管理事例、または、判例などの具体的な事例の調査・分析・考察の手法を学んだうえで、自ら選択したテーマについて、教員の助言を受けながら、具体的な事例や実態の調査・分析・考察を経験する。また、その結果を報告にまとめる。こうした調査・研究手法の講義と助言、および、自ら行う調査と報告作成を通じて、特別研究に取り組むための基礎的な能力を養う。</p> <p>ゼミ形式にて、指導教員との相談を適時に実施しながら進める。まず、教員から特別研究の準備に必要な知識や手法を講義し、受講者は、教員と相談して研究テーマを決め、自主的な調査・研究の準備に入る。そのうえで、受講者は研究テーマに合わせて、教員の助言を受けながら、内外の研究成果や文献、報告書等を検討した上で、テーマを決定し、各種文献、判例、実態その他の調査、分析を行い、考察して、報告作成と発表を行う。</p> <p>本ゼミでは、院修了年次において学会での発表を努力目標としており、発表に向けた準備も行う予定である。</p>
----------	--

授業の内容・教育方法	
(授業の授業スケジュール)	第1回: 研究の基礎事項 研究分野に関する基本事項の学修、及び研究倫理に関する講義
	第2回: 研究の基礎事項 研究の進め方の学修・仮テーマの選定
	第3回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第4回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第5回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第6回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第7回: 報告作成 報告の執筆とその助言
	第8回: 報告作成 調査結果発表

到達目標	<p>以下、特別研究の着手に必要な最低限の能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産の管理事例または判例等の具体的な先行事例の調査、分析、考察の能力 ・前項について英語などの外国語により開示された具体的な先行事例についても実施する能力 ・具体的先行事例の調査・分析・考察を通して新たな課題を発見する能力
評価方法	<p>評価の対象は、報告の内容を主とし、さらに研究における取り組み、発表内容・態度をも考慮して行う。その評価の割合は以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究基礎調査における取り組み: 10% ② 報告の内容: 70% ③ 発表の内容・態度: 20%
成績評価基準	<p>以上の①～③を指導教員が上記比率に従って総合評価する。</p> <p>総合点90～100 ……評価「A」 総合点80～89 ……評価「B」 総合点70～79 ……評価「C」 総合点60～69 ……評価「D」 総合点 0～59 ……評価「F」</p> <p>(注) 評価の結果は、「A」～「D」を合格、「F」を不合格とする。 ミニマムクワイアメント: 演習課題への継続的な取組と事実の調査結果に基づく独自の分析を行うこと。さらに、先行文献に対する進歩性、独自の考察に応じて総合点を評価する。</p>

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			研究テーマや分野に応じ、各指導教員が適宜提示する。		

受講心得	<p>ゼミ開講時に、事前準備(予習事項)・受講後の展開(課題と復習事項)の指示をするので、これらに応えるとともに、自主的に調査・研究を行い、ゼミ開講時に十分な指導を受けること。また他のゼミ生の研究についても関心をもち、ゼミ開講時には自己の研究について積極的に発表し、教員や他のゼミ生と討論すること。</p> <p>本科目はメディア授業対応です。</p> <p>ゼミ内での発表後、ディスカッションを行うので、ディスカッションには積極的に参加し、理解を深めること。</p> <p>フィードバックはゼミ中に行うので改善の参考にすること。</p>
------	---

オフィスアワー	指導教員のゼミ開講時間以外にも、予約により教員が研究室に在室の場合に質問や相談に応じ、またメール等による相談も受付ける。
---------	--

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
研究基礎 (Basics for Research)	MPAF02	1	1年次	後期集中	山田 繁和(ヤマダ シゲカズ)

授業のねらい概要	<p>特別研究の準備のために、知的財産の管理事例、または、判例などの具体的な事例の調査・分析・考察の手法を学んだうえで、自ら選択したテーマについて、教員の助言を受けながら、具体的な事例や実態の調査・分析・考察を経験する。また、その結果を報告にまとめる。こうした調査・研究手法の講義と助言、および、自ら行う調査と報告作成を通じて、特別研究に取り組むための基礎的な能力を養う。</p> <p>ゼミ形式にて、指導教員との相談を適時に実施しながら進める。まず、教員から特別研究の準備に必要な知識や手法を講義し、受講者は、教員と相談して研究テーマを決め、自主的な調査・研究の準備に入る。そのうえで、受講者は研究テーマに合わせ、教員の助言を受けながら、内外の研究成果や文献、報告書等を検討した上で、テーマを決定し、各種文献、判例、実態その他の調査、分析を行い、考察して、報告作成と発表を行う。</p> <p>本ゼミでは、院修了年次において学会での発表を努力目標としており、発表に向けた準備も行う予定である。</p>
----------	---

授業の内容・教育方法	
(授業の授業スケジュール)	第1回: 研究の基礎事項 研究分野に関する基本事項の学修、及び研究倫理に関する講義
	第2回: 研究の基礎事項 研究の進め方の学修・仮テーマの選定
	第3回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第4回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第5回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第6回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第7回: 報告作成 報告の執筆とその助言
	第8回: 報告作成 調査結果発表

到達目標	<p>以下、特別研究の着手に必要な最低限の能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産の管理事例または判例等の具体的な先行事例の調査、分析、考察の能力 ・前項について英語などの外国語により開示された具体的な先行事例についても実施する能力 ・具体的先行事例の調査・分析・考察を通して新たな課題を発見する能力
評価方法	<p>評価の対象は、報告の内容を主とし、さらに研究における取り組み、発表内容・態度をも考慮して行う。その評価の割合は以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究基礎調査における取り組み: 10% ② 報告の内容: 70% ③ 発表の内容・態度: 20%
成績評価基準	<p>以上の①～③を指導教員が上記比率に従って総合評価する。</p> <p>総合点90～100 ……評価「A」 総合点80～89 ……評価「B」 総合点70～79 ……評価「C」 総合点60～69 ……評価「D」 総合点 0～59 ……評価「F」</p> <p>(注) 評価の結果は、「A」～「D」を合格、「F」を不合格とする。 ミニマムクワイアメント: 演習課題への継続的な取組と事実の調査結果に基づく独自の分析を行うこと。さらに、先行文献に対する進歩性、独自の考察に応じて総合点を評価する。</p>

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			研究テーマや分野に応じ、各指導教員が適宜提示する。		

受講心得	<p>ゼミ開講時に、事前準備(予習事項)・受講後の展開(課題と復習事項)の指示をするので、これらに応えるとともに、自主的に調査・研究を行い、ゼミ開講時に十分な指導を受けること。また他のゼミ生の研究についても関心をもち、ゼミ開講時には自己の研究について積極的に発表し、教員や他のゼミ生と討論すること。</p> <p>本科目はメディア授業対応です。</p> <p>ゼミ内での発表後、ディスカッションを行うので、ディスカッションには積極的に参加し、理解を深めること。</p> <p>フィードバックはゼミ中に行うので改善の参考にすること。</p>
------	---

オフィスアワー	指導教員のゼミ開講時間以外にも、予約により教員が研究室に在室の場合に質問や相談に応じ、またメール等による相談も受付ける。
---------	--

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
研究基礎 (Basics for Research)	MPAF02	1	1年次	後期集中	角田 全功(カクタ マサノリ)

授業のねらい概要	<p>特別研究の準備のために、知的財産の管理事例、または、判例などの具体的な事例の調査・分析・考察の手法を学んだうえで、自ら選択したテーマについて、教員の助言を受けながら、具体的な事例や実態の調査・分析・考察を経験する。また、その結果を報告にまとめる。こうした調査・研究手法の講義と助言、および、自ら行う調査と報告作成を通じて、特別研究に取り組むための基礎的な能力を養う。</p> <p>ゼミ形式にて、指導教員との相談を適時に実施しながら進める。まず、教員から特別研究の準備に必要な知識や手法を講義し、受講者は、教員と相談して研究テーマを決め、自主的な調査・研究の準備に入る。そのうえで、受講者は研究テーマに合わせ、教員の助言を受けながら、内外の研究成果や文献、報告書等を検討した上で、テーマを決定し、各種文献、判例、実態その他の調査、分析を行い、考察して、報告作成と発表を行う。</p> <p>本ゼミでは、院修了年次において学会での発表を努力目標としており、発表に向けた準備も行う予定である。</p>
----------	---

授業の内容・教育方法	
(授業の授業スケジュール)	第1回: 研究の基礎事項 研究分野に関する基本事項の学修、及び研究倫理に関する講義
	第2回: 研究の基礎事項 研究の進め方の学修・仮テーマの選定
	第3回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第4回: 仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第5回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第6回: 調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第7回: 報告作成 報告の執筆とその助言
	第8回: 報告作成 調査結果発表

到達目標	<p>以下、特別研究の着手に必要な最低限の能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産の管理事例または判例等の具体的な先行事例の調査、分析、考察の能力 ・前項について英語などの外国語により開示された具体的な先行事例についても実施する能力 ・具体的先行事例の調査・分析・考察を通して新たな課題を発見する能力
評価方法	<p>評価の対象は、報告の内容を主とし、さらに研究における取り組み、発表内容・態度をも考慮して行う。その評価の割合は以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究基礎調査における取り組み: 10% ② 報告の内容: 70% ③ 発表の内容・態度: 20%
成績評価基準	<p>以上の①～③を指導教員が上記比率に従って総合評価する。</p> <p>総合点90～100 ……評価「A」 総合点80～89 ……評価「B」 総合点70～79 ……評価「C」 総合点60～69 ……評価「D」 総合点 0～59 ……評価「F」</p> <p>(注) 評価の結果は、「A」～「D」を合格、「F」を不合格とする。 ミニマムクワイアメント: 演習課題への継続的な取組と事実の調査結果に基づく独自の分析を行うこと。さらに、先行文献に対する進歩性、独自の考察に応じて総合点を評価する。</p>

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			研究テーマや分野に応じ、各指導教員が適宜提示する。		

受講心得	<p>ゼミ開講時に、事前準備(予習事項)・受講後の展開(課題と復習事項)の指示をするので、これらに応えるとともに、自主的に調査・研究を行い、ゼミ開講時に十分な指導を受けること。また他のゼミ生の研究についても関心をもち、ゼミ開講時には自己の研究について積極的に発表し、教員や他のゼミ生と討論すること。</p> <p>本科目はメディア授業対応です。</p> <p>ゼミ内での発表後、ディスカッションを行うので、ディスカッションには積極的に参加し、理解を深めること。</p> <p>フィードバックはゼミ中に行うので改善の参考にすること。</p>
------	---

オフィスアワー	指導教員のゼミ開講時間以外にも、予約により教員が研究室に在室の場合に質問や相談に応じ、またメール等による相談も受付ける。
---------	--

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
研究基礎 (Basics for Research)	MPAF02	1	1年次	後期集中	尾茂 康雄(オモ ヤスオ)

授業のねらい概要	<p>特別研究の準備のために、知的財産の管理事例、または、判例などの具体的な事例の調査・分析・考察の手法を学んだうえで、自ら選択したテーマについて、教員の助言を受けながら、具体的な事例や実態の調査・分析・考察を経験する。また、その結果を報告にまとめる。こうした調査・研究手法の講義と助言、および、自ら行う調査と報告作成を通じて、特別研究に取り組むための基礎的な能力を養う。</p> <p>ゼミ形式にて、指導教員との相談を適時に実施しながら進める。まず、教員から特別研究の準備に必要な知識や手法を講義し、受講者は、教員と相談して研究テーマを仮決めして、自主的な調査・研究の準備に入る。そのうえで、受講者は研究テーマに合わせ、教員の助言を受けながら、内外の研究成果や文献、報告書等を検討した上で、テーマを決定し、各種文献、判例、実態その他の調査、分析を行い、考察して、報告作成と発表を行う。</p> <p>本ゼミでは、院修了年次において学会での発表を努力目標としており、発表に向けた準備も行う予定である。</p>
----------	--

授業の内容・教育方法	
(授業の授業スケジュール)	第1回:研究の基礎事項 研究分野に関する基本事項の学修、及び研究倫理に関する講義
	第2回:研究の基礎事項 研究の進め方の学修・仮テーマの選定
	第3回:仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第4回:仮テーマの調査 研究分野に関する文献調査(フィールド調査)の講義と実施
	第5回:調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第6回:調査結果の分析・考察 主要論文の論点抽出・分析・考察の指導とその実施、収集データの処理・分析・考察の指導と実施
	第7回:報告作成 報告の執筆とその助言
	第8回:報告作成 調査結果発表

到達目標	<p>以下、特別研究の着手に必要な最低限の能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産の管理事例または判例等の具体的な先行事例の調査、分析、考察の能力 ・前項について英語などの外国語により開示された具体的な先行事例についても実施する能力 ・具体的先行事例の調査・分析・考察を通して新たな課題を発見する能力
------	---

評価方法	<p>評価の対象は、報告の内容を主とし、さらに研究における取り組み、発表内容・態度をも考慮して行う。その評価の割合は以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究基礎調査における取り組み:10% ② 報告の内容:70% ③ 発表の内容・態度:20%
------	---

成績評価基準	<p>以上の①～③を指導教員が上記比率に従って総合評価する。</p> <p>総合点90～100 ……評価「A」 総合点80～89 ……評価「B」 総合点70～79 ……評価「C」 総合点60～69 ……評価「D」 総合点 0～59 ……評価「F」</p> <p>(注)評価の結果は、「A」～「D」を合格、「F」を不合格とする。 ミニマムクワイアメント: 演習課題への継続的な取組と事実の調査結果に基づく独自の分析を行うこと。さらに、先行文献に対する進歩性、独自の考察に応じて総合点を評価する。</p>
--------	---

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			研究テーマや分野に応じ、各指導教員が適宜提示する。		

受講心得	<p>ゼミ開講時に、事前準備(予習事項)・受講後の展開(課題と復習事項)の指示をするので、これらに応えるとともに、自主的に調査・研究を行い、ゼミ開講時に十分な指導を受けること。また他のゼミ生の研究についても関心をもち、ゼミ開講時には自己の研究について積極的に発表し、教員や他のゼミ生と討論すること。</p> <p>本科目はメディア授業対応です。 ゼミ内での発表後、ディスカッションを行うので、ディスカッションには積極的に参加し、理解を深めること。 フィードバックはゼミ中に行うので改善の参考にすること。</p>
------	---

オフィスアワー	指導教員のゼミ開講時間以外にも、予約により教員が研究室に在室の場合に質問や相談に応じ、またメール等による相談も受付ける。
---------	--